

価値観養い感度を磨く

職場の掲示板に、新聞記事が隙間なく張られている。機械部品メーカー「岩田製作所」（岐阜県関市）の生産管理課。社員が毎朝、切り抜いて持ち寄る。

「週休三日制導入」「沸き立つ半導体市場」。切り抜く記事の分野は決めているが、製造業や働き方を取り扱う記事が多くなる。

「野球をするなら『走る』『投げる』といった基礎的な能力が必要でしょう。どの分野でも新聞記事を読んで理解できることが、社会人の基礎的な能力」。岩田製作所社長（右）はそう例える。

岩田製作所は二〇一四年一月、三十歳までの社員を

① 企業の現場から



新話の前の話、岩田製作所社長（右）と社員たち（左）が、壁に張られた新聞記事を見ながら話している。



岩田製作所の
岩田修造社長



エイチームの
林高生社長

の社員はだれ一人スマホを手にはせず、話し声が絶えることなく響く。

岩田社長がユニークな取り組みを始めた原点は、大学生時代にある。喫茶店で当時読んだ新聞や雑誌が、自らの価値観の基になっていると感じる。

高卒で入社した三十代の社員は、岩田社長にこう漏らしたという。「新聞も読まないまま三十代になっていたらと思うと、何だか怖

い」
会社の売り上げは、この三年で十三億二千万円から十九億六千万円（一六年九月期）に伸びた。もちろん、取り組みの効果かどうかは、分からない。

「一番大事なのは社員」。常々そう口にする岩田社長は続けた。「仮に仕事に役に立たない取り組みだとしても、新聞を読んだ社員の中には必ず何かが残る」

ゲーム制作を手掛ける「エイチーム」（名古屋市中村区）。IT業界の最先端を進む企業の一つだ。その食堂の隅には複数の新聞が置かれ、各部署では業界紙が購読されている。「インターネットの枠は

無限だが、新聞には枠がある。有限だからこそ、（選ばれて）紹介されている情報に価値がある」。十代で新聞配達をした経験を持つ林高生社長（右）は言う。

個人事業者として岐阜県土岐市で創業。会社は今や、社員五百六十人、年間二百三十億円（連結）を売り上げる。仕事に関係する法律の改正を知り、ビジネスのネタを発見することも。

偶然的発見は、十分に準備している者に訪れると感じている。林社長が重要だと信じるのは感度だ。

「記事に隠れているビジネスチャンスに気付くことができるのは、いつも感度を高めている人」（中村禎一郎、世古紘子が担当しました）

◆N-1E=Newspaper In Education（教育に新聞を）

対象に、新聞購読に毎月二千元を補助する制度を創設。現在、四十六人の対象者のうち二十六人が制度を利用する。

「うちの社員たちは『村度』って言葉、社会に広がる前から知ってたよ」
正午からの昼休み。食堂